「木づかい」

登米市は農業のまち―
そのイメージを持つ人が多いはず
しかし、登米市は「林業」も盛んです
今号は市内の林業を紹介します
一人一人の「ちょっとした気づかい」が
「多くの木づかい」へと変わるきっかけになります

実は林業も盛んな本市

本市の面積５万３６００ヘクタールのうち、森林は２万２２２０ヘクタールと41パーセントを占めています。

国有林を除く森林は１万９５４７ヘクタールで、そのうち、スギやヒノキ、アカマツなどの人工林が１万３６８５ヘクタールとなっています。人工林は、家や家具などに使用する木材を生産するため植林したもの。人工林率は70パーセントと県平均の54パーセントを上回っており、林業の盛んな地域です。

樹種別では、スギが最も多く植林されています。

市では、主要な樹種に独自の伐採時期を定めています。例えば、スギやアカマツは50年、ヒノキは70年です。日本では、戦後復興のため木材の需要が急増しました。しかし、戦時中の乱伐などにより供給が追いつかなかったことから、スギやヒノキの植林が始まりました。この頃に植林されたものが現在伐採時期を迎えています。

森林は、木材やキノコなどの林産物を生産するほか、水の貯蔵、地球温暖化や土砂災害を防止する役割を担っています。

木の根には、土壌の流出を防ぐ機能があります。森林表面の土壌は、落ち葉や草が腐ってできた有機物などで構成され、適度な隙間が存在し、保水機能があります。

森林は、手入れをしないで放置していると、木々が密集し、地面まで光が届かないために草が生えなくなります。木の根も十分に成長しないため、保水機能がある表面の土壌が流出。そのため、大雨が降ると水を蓄えられず、土砂崩れや河川の氾濫などが発生してしまうのです。

そのほか、動植物の多様な生態系の保存、キャンプや森林セラピーといったレクリエーション・癒やしの場の提供など、森林には多種多様な機能があります。

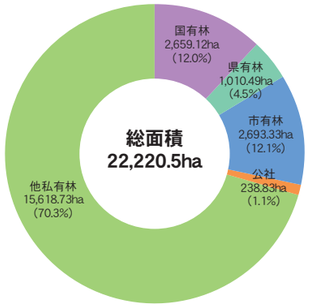
木を使うことが森林を守ること

木材価格は、１９８０年をピークに下落を続け、現在はその３分の１に落ち込んでいます。要因としては、安価な外国産木材の需要や、鉄筋コンクリートなど木材以外の建築材料の増加などにより、国産木材の需要が減少したためです。

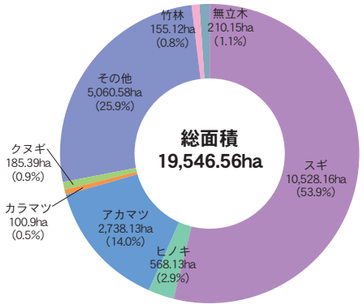
森林は、手入れをすることで、力を最大限に発揮します。生産者は、伐採した木を売ることで収入を得て、それを元手に苗木を植え、森林を整備するのです。木材が使われなければ、伐採しても採算が合わず、林業の担い手が減っていき、手入れがされない森林は荒れるという悪循環に陥ります。

木材を使うことが身近にある森林を守ることにつながるのです。

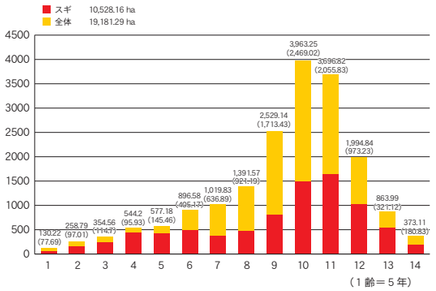
◆登米市の所有形態別森林面積



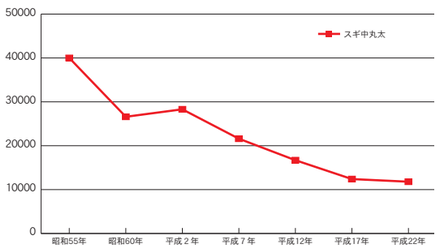
◆登米市の樹種別森林面積



◆登米市の齢級別森林面積



◆国産スギ材丸太価格の推移（全国）



※農林水産省「木材価格」「木材統計」より